

令和元年度
事業報告書

社会福祉法人サムス会

社会福祉法人サムス会 法人運営	
事業名	会務の運営 (1. 理事会 2. 評議員会 3. 監事会)
事業内容	<p>1. 理事会</p> <p>第1回理事会 (令和元年5月27日開催)</p> <p>第1号議案 平成30年度事業報告及び計算書類(決算報告)について</p> <p>第2号議案 平成30年度監事監査報告について</p> <p>第3号議案 理事候補者(案)・監事候補者(案)の推薦について</p> <p>第4号議案 評議員会の招集について</p> <p>第5号議案 就業規則の一部変更について</p> <p>第2回理事会 (令和2年2月5日開催)</p> <p>第1号議案 令和元年度補正予算(案)について</p> <p>第2号議案 令和2年度事業計画(案)について</p> <p>第3号議案 令和2年度当初予算(案)について</p> <p>第4号議案 社会福祉法人サムス会 給与規程改正(案)について</p> <p>2. 評議員会</p> <p>第1回評議員会 (令和元年6月18日開催)</p> <p>第1号議案 平成30年度計算書類(決算報告)について</p> <p>第2号議案 平成30年度監事監査報告について</p> <p>第3号議案 理事の任期満了に伴う選任について</p> <p>第4号議案 監事の任期満了に伴う選任について</p> <p>第2回評議員会 (令和2年2月26日開催)</p> <p>第1号議案 令和元年度補正予算(案)について</p> <p>第2号議案 令和2年度事業計画(案)について</p> <p>第3号議案 令和2年度当初予算(案)について</p> <p>3. 監事会・・・法人における監査機関として開催</p> <p>第1回監事会 (令和元年5月20日開催)</p> <p>平成30年度事業報告及び会計資産関係の監査について</p>
事業名	法人運営会議
	<p>毎月の定例会の実施</p> <p>現場の課題問題点も含めた意思決定が、法人運営会議で決定できる。結果、集団的に意思決定が行われ、法人の運営体質を変える。</p> <p>第1回 (平成31年4月12日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シートの配布、回収について ・桜の森カフェ市報への掲載、広報活動について ・派遣職員削減について <p>第2回 (令和元年5月10日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族へのアンケート結果について ・苦情、クレーム対応について

<p style="text-align: center;">事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員面談結果について 第3回（令和元年6月14日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族アンケート結果への対応について ・フロアーリーダー会議協議内容の変更について ・人事考課制度について 第4回（令和元年8月9日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・若い経験年数の浅い職員の外部研修への参加計画について ・内部研修の計画について ・ユニットでの入居者の楽しみ作りについて 第5回（令和元年9月6日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・10月1日からの体制作りについて ・消費税増税に伴う居住費、食費の変更について ・最低賃金改正に伴うパート職員時給について 第6回（令和元年10月11日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスの人件費率削減について ・本日のリーダー会議内容について ・施設車両の使用調整について 第7回（令和元年11月8日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・人事考課票説明について ・当施設での介護職員初任者研修講習実施について ・職員引辞の供花等について 第8回（令和元年12月13日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・冬季賞与の現状説明について ・令和2年度事業計画（案）作成について ・職員の補充状況について 第9回（令和2年1月10日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・職員の補充について 第10回（令和2年2月14日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・4月の職員異動について ・朝のデイサービス送迎車到着時の応援について 第11回（令和2年3月6日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・職員の補充について ・「賃金制度」「特定処遇改善加算手当」に関して社会保険労務士による説明会について
---	---

事業名	1. 経営基盤の確立 2. 人材育成 3. 人事考課 4. 地域福祉活動
事業内容	<p>令和元年度は、法人の基本理念である「利用者・家族・職員の笑顔があふれる施設」の実現を目指し、昨年度に引き続き、公益性と安定したサービスを提供するための経営基盤の強化のため、サービス部門ごとに現状分析を行い、課題、問題点を抽出、顕在化させ、収支バランスのとれた財政運営の構築に向けて、職員一丸となって無駄・無理・ムラのない業務効率の向上と歳出削減や加算取得、利用率向上等による収入増の対策、職員個々の能力及び意識向上を図る組織改革に取り掛かりました。</p> <p>1. 経営基盤の確立</p> <p>(1) 人件費率の適正化</p> <p>法人経営を圧迫する最大の要因である人件費率の適正化については、特養をはじめとする各事業の職員配置は、国の基準以上になっているものの、各業務量の均等化を図ることと併せて、職員の計画定数の見直しを継続し、また、派遣職員の完全撤退態勢の構築に取り組み、実現できました。</p> <p>(2) 職員配置基準、組織の見直し</p> <p>特養、ショートステイについては、職員配置体制の2ユニット化を維持し、収支バランスに見合う適正化を継続。また、在宅療養の要でもある訪問看護事業の充実のため、ステーション内の抜本的人事改革を行い、また看護師と作業療法士の職員を増員して事業の体制強化を図りました。</p> <p>(3) 利用率の向上等による増収対策の推進</p> <p>介護保険事業収入は収益の大宗であり、安定経営を持続するための増収対策としては、如何に利用率を向上させるかが鍵となるため、昨年度に引き続き、特養については稼働率97.5%維持のため、入居者の入院期間が長期化しない方策として介護と医療の更なる連携強化を図り、また、退去が発生した後の新規入居までの期間短縮を図る方策として組織内の迅速な報・連・相体制の強化を図りました。</p> <p>ショートステイについては、稼働率90%維持のため、昨年度に引き続き、長期期間（ロングショート）利用者と通常利用のバランス及び特養空床利用により稼働率の向上を図りました。</p> <p>デイサービスについては、収入の増加対策と支出（人件費率）の抑制対策を重点的に取り組みました。</p> <p>稼働率アップと労働生産性を高める抜本的な取り組みをすすめるため、センター長の職責を新たに設け、徹底した業務改善に努めました。</p> <p>その結果、稼働率はセンター長就任以来、80%を越えるようになり、各居宅介護支援事業所からデイサービスの取り組み内容や成果を評価していただける事業展開を図りました。</p> <p>訪問看護事業については、抜本的人事改革を行った結果、30年度の2倍強の利用率を確保することができました。</p> <p>居宅介護支援事業については、特定事業所加算を算定できる事業所として安定経営を維持。なり、担当利用者人数は当初計画に対して97%の達成率になりました。</p>

事業内容	<p>2. 人材育成</p> <p>(1) 専門性を高める研修の実施</p> <p>施設の要である人材の育成強化である内部研修の全員参加と外部研修にも積極的に参加し、幅広い知識や柔軟な思考を培い、根拠に基づいた実践ができる人材育成を目指した。</p> <p>施設内研修（勉強会）</p> <p>6月27日 メディカルサポート勉強会（褥瘡対策委員）</p> <p>8月28日、9月4日 認知症の人へのケア</p> <p>9月26日、9月27日 身体拘束勉強会（事故、虐待含む）</p> <p>11月11日、12月4日 施設における感染症対策</p> <p>1月～ 看取り勉強会（各ユニット会議にて）</p> <p>2月21日 フォローアップ研修（移乗等）</p> <p>上記の勉強会を開催し、職員の知識向上・質の高い技術・深い洞察力を身に付け、より安心・安全な施設作りを目指した。ユニット職員の人員不足により、職員全員参加には至らなかった。またユニットリーダーを講師とする研修、喀痰吸引等の研修についても継続的なユニットリーダー及び職員の参加が困難であり未実施となった。</p> <p>施設外研修</p> <p>研修受講案内に沿って人選、研修への派遣を実施。その他自己啓発による研修への参加の支援を行った。</p> <p><参加研修></p> <p>5月11～12日 日全日</p> <p>本鍼灸学会</p> <p>5月25日 デイサービス事業所における事業運営上の留意点</p> <p>6月20日 令和元年度介護保険サービス事業者等集団指導</p> <p>6月29～30日 第70回日本東洋医学会学術総会</p> <p>7月10日、8月23日 防災研修</p> <p>7月13日 阿部充宏先生の施設ケアマネ研修</p> <p>7月18～19日 老人福祉施設研究大会</p> <p>7月19日 2019年度介護報酬改定について</p> <p>7月20日 日本理学療法士協会指定研修</p> <p>9月7日 タウンミーティング～介護福祉士が今なすべきこと、これからの取り組み～</p> <p>9月21日 キューピーセミナー講演会・料理講習会</p> <p>10月27日 楽ワザ介護術 RXセミナー</p> <p>11月5、29日 介護施設で働く看護職のための実務者研修</p> <p>11月26日 かすみの里 自立支援講座</p> <p>12月5日 ACP 研修会</p> <p>1月16日 給食施設管理者研修会</p> <p>1月21日 セントラルキッチン</p> <p>1月22日 食事ケア・摂取嚥下支援</p> <p>2月16日 全国若年認知症フォーラム IN 三重</p>
------	---

事業内容

その他年度末に予定していた ACP、職場内研修体制構築研修等は新型コロナウイルスの流行により、感染予防のため参加自粛とした。

3. 人事考課

考課の基本は、理念の理解、行動規範の実践、倫理綱領の遵守にあります。この基本のもと、よりよい利用者支援、よりよい施設運営、よりよい法人運営のために、新たな人事考課制度を導入しました。

職員配置、昇格、給与等の職員処遇の基本的な根拠資料として、尚且つ職員研修等人材育成の基本資料となるものとし、職員の成長が「社会福祉法人がより多くの成果を上げること」につながるよう整備しました。

下半期より、従来の「業務のふりかえりシート」から新たな評価シートに変更したことにより、職員が今の自分を知り、働くための目標を明確にし、職員が競い合うのではなく、育ち合う関係をつくることで安定した活力ある職場風土となるように取り組みました。

4. 地域福祉活動

桜の森カフェ

日	行事名	内容	参加者 (人数)
4/14	手芸	フラワーボックスの作成	13名
5/12	おやつ作り	パイ(あんこ・チョコ)を手作り 焼き立てを食べながらお話	8名
6/9	はり・きゅうのチカラを 身近に知る・感じる①	桜の森白子ホーム鍼灸師による鍼灸の 講義と体験会	20名
7/14	鈴鹿医療科学大学 中東先生講義① 「食事介助のコツ」	食事介助を行う際のポイントについて の講義 食器やお菓子を使用した実技	10名
8/18	おやつ作り	雪見大福を手作り 出来立てを食べながらお話	5名
9/8	HAL 腰タイプ体験会	桜の森白子ホーム OT による HAL につい ての講義と体験会	9名
10/13	鈴鹿医療科学大学 中東先生講義② 「自宅で簡単 介護食の 作り方」	介護食の既製品を使用した アレンジ料理のレシピを学び、実際に 調理し喫食する	11名
11/10	はり・きゅうのチカラを 身近に知る・感じる②	桜の森白子ホーム鍼灸師による体質の 特徴と生活アドバイスについての講義	16名
12/8	鈴鹿医療科学大学 中東先生講義③ 「介護食を見て知って 食べてみよう」	スマイルケア食の紹介と選び方 既製品(スマイルケア食)のゼリーやう どんの試食	5名
1/12	介護保険について	桜の森白子ホーム事務長(居宅管 理者)・CMによる講義と質問会	8名

	2/9	鈴鹿医療科学大学 中東先生講義④ 「家族みんなで元気、あ ったか薬膳」	身体を温める効果のあるジンジャーケ ーキとチャイラテ作り 喫食前に嚥下体操を行う	13名
	3/8	HAL 腰タイプ体験会を予定していたが、新型コロナウイルス流行の為中止		

ホリデー子ども広場 参加者内訳表

日 時	対象者	ボランティア (学生)	職員
H31年4月29日	9	11	3
R1年7月15日	7	1	4
R1年9月23日	4	3	3
R1年10月14日	4	7	2
延べ人数	24	22	12

実習生受入状況

事業内容

鈴鹿医療科学大学看護学部 看護学科3年
全8クール
実習内容：老年看護学実習
令和元年5月7日～5月17日 (5名)
令和元年5月27日～6月8日 (5名)
令和元年9月24日～10月4日 (5名)
令和元年10月21日～11月1日 (6名)
令和元年11月5日～11月15日 (5名)
令和元年12月2日～12月13日 (5名)
令和2年1月14日～1月24日 (6名)
令和2年2月3日～2月14日 (5名)
計42名

鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 医療福祉学科
実習内容：施設見学、コミュニケーション体験
令和元年7月9日 (27名)

鈴鹿医療科学大学学科混合1年
実習内容：医療人底力実践基礎1 約600名
令和元年9月19日、26日
令和元年10月3日、10日、24日、31日
令和元年11月7日、14日、21日、28日
令和元年12月12日、19日
令和2年1月9日、17日(補習日)

鈴鹿医療科学大学薬学部 薬学科
実習内容：見学体験 約100名
令和元年12月18日、20日

事業内容	<p> 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 医療栄養学科 3年 実習内容：臨地実習Ⅰ 給食経営管理論 令和2年2月17日～2月21日（2名） 令和2年2月24日～2月28日（2名） 計4名 </p> <p> 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 リハビリテーション学科2年 理学療法学専攻3年 令和2年2月17日～2月21日 1名 </p> <p> 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科2年 実習内容：見学 令和元年9月20日 2名 令和元年10月4日 2名 令和元年10月11日 2名 令和元年10月18日 2名 令和元年10月25日 2名 令和元年11月1日 2名 令和元年11月15日 2名 令和元年11月22日 2名 令和元年11月29日 2名 令和元年12月13日 1名 計19名 </p> <p> 鈴鹿医療科学大学看護学部 看護学科3年 実習内容：老年在宅 令和元年5月7～18日 2名 令和元年6月28～6月8日 2名 令和元年9月24～10月2日 2名 令和元年10月15～23日 2名 令和元年11月5～13日 2名 令和元年11月25～12月4日 2名 令和2年1月14～22日 2名 令和2年2月3～12日 2名 計72名 </p>
------	--

社会福祉事業の運営	
事業名	介護老人福祉施設の運営
事業内容	<p>1. 特養部門の取り組み</p> <p>入居者・家族から求められる医療ニーズに対して継続的に対応するため、知識と技術の習得が必要不可欠となる現場で、看取りに対して外部研修や施設内研修を医務中心に重ねて行った。また、デスクカンファレンスを行う事で看取りに携わった介護職員の心理的ケアも継続的に行った。</p> <p>自立支援・重度化防止の為に専門職との連携を密に取り、安心して心豊かに過ごすことができる施設を目指しハードとソフト両面を整える体制を構築した。それぞれが専門職として入居者一人一人の状態を把握し、意見を出し合える関係性を築くことで、“その人らしさ”が続けられる環境を整えることができた。</p> <p>また、入院等での空床利用についてはショートステイ相談員と速やかに日程を調整することで、ショート利用の家族のニーズにも対応することができ、ショートステイ稼働率にもつなげることが出来た。</p> <p>【基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個々の入居者ニーズを把握し、“その人らしさ”が続けられる支援と桜の森白子ホームで最後を迎えたいと入居者や家族が望めば看取りケアも実施していく。 2. 風通しの良い職場を目指し、良好なチームワークを構築していく。 3. ハードとソフトの両面から選ばれる施設を目指していく。 <p>【具体的取り組み】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最期までその方らしい生活を送って頂く為に、ACPの外部研修への参加と、看取りについての勉強会を重ねて行った。また看取り期となった時点でカンファレンスを開催。本人や家族の望むケアを最期まで継続するための話し合いを行った。しかし、勉強会の開催に関しては職員配置の関係で参加率が下がり、全員参加とは至らなかった。その為看取りの勉強会に関しては、各ユニット会議にて勉強会の時間を設け、医務からの指導を受けた。 2. 新入職員に対して定期的に面談を実施し、ユニット職員との関係性や不安や悩み等の聞き取りを行い、早い段階で問題解決できるような指導と対応をとった。 3. 医務との連携を図るため、統括主任・介護主任・医務リーダーで定期的に会議を行い、現状の報告と改善点の話し合いを行った。また、職員の知識と技術の向上を目的とした外部研修には、参加希望者だけでなく、今まで研修等に積極的でなかった職員にも参加を促した。 <p>機能訓練指導員の具体的取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別リハビリの実施 <p>入居者の主訴や身体機能に合わせて個別的なリハビリを実施し、疼痛軽減や日常生活動作能力の維持・向上を目指した。同時に入居者の身体機能の評価・把握をする。また、リハビリをしながらコミュニケーションを積極的に取ることで、ご本人様の不安や楽しみ等の聞き取りを行い、リハビ</p>

事業内容

りに活かした。体調不良や入院加療による長期臥床をされていた方の、離床のタイミングを医務・介護と相談しながら実施していき、バイタルの変動に関しても問題ないか判断し、早期離床に努めた。骨折直後の方、特に保存にて施設に戻ってこられた方に対して、ご本人様に負担のない介助方法を検討し、介護職員への指導を行った。

・機能訓練計画の作成・ご家族様への説明・管理

上記個別リハビリにて入居者の身体状況や主訴等の把握を行い、3か月ごとに計画書の更新を行った。またご家族様に直接説明し同意を得ることで、リハビリテーションに対する理解を得る。ご家族様からの希望も聞き取り、計画書へと反映させた。合わせて、直接ご家族様とお話しできる機会となるので、ご本人様の普段の様子も伝えていくことで安心感を持っていただけるよう配慮した。

・生活リハビリテーションの作成・管理

毎日の生活の中で、簡単な運動の取り入れや自立性を促した日常生活動作を実施することで、運動習慣の確保及び身体機能の維持・向上を図った。入居者の身体機能の変化に応じて、生活リハビリの内容の再検討を行った。介護職員主体で声掛けや自立支援の介助を行っていただくことで、リハビリを身近なものとして関わっていただき、身体機能の把握や自立支援に対する理解を深めてもらった。

・福祉用具の選定

入居者に合った車いすやクッション・靴等の選定を行い、日常生活を安全安楽に過ごしていただけるように努め、施設の物品として本当に必要なものであるかの選定・管理を行った。施設の物品（リクライニング型車椅子・クッション・三角クッション・L字柵）は数にも限りがあるため本当に必要な方に使用していただけるようその都度確認し管理した。

・介護職員への指導・相談業務

入居者の安全・安楽を意識した介助をすべての職員が行っていただけるよう、職員指導を実施した。また、職員の負担軽減を図れるような介助方法の検討を行った。他職種とのコミュニケーションを積極的に取ることでお互いに質問・相談しやすい環境を作り、実際の介助の中で困っている事（移乗やポジショニング、生活環境等）に対して解決に繋がった。また個別リハビリに関しても、介助負担軽減を目指していただけるよう、実際の困りごとの軽減に向け、リハビリの内容・頻度を検討した。

・サービス担当者会議への参加

身体状況やリハビリテーションの内容・経過を各専門職に伝えることで情報共有・目標の統一を図った。日常的には行っていないが、リハビリではこんなことが出来ているということを伝え、過介助を行わないよう注意した。

・PT 実習生の受け入れ・指導

鈴鹿医療科学大学理学療法学科の学生の実習の受け入れを行った。見学実習（5日間）の間に、特養の特色や理学療法士としての役割・理学療法士として入居者と関わることの楽しさを伝えた。

最初の実習とのことで、3年4年のさらに専門的な実習に向け、利用者様に協力していただき、コミュニケーションの取り方や学生同士の練習では感じる事の出来ない評価や会話での情報収集のむずかしさを体感してもらった。大きな実習に行く前に、自分の出来なさを理解し、残りの期間で学習すべき課題を確認し、学生生活に活かしてもらうことが目標。

<p>事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイからの相談（ポジショニング指導・機能訓練・福祉用具の選定） ショートステイ利用者の身体状況の相談に乗り、ショートステイの利用者に関しても必要に応じて機能訓練の実施を検討した。福祉用具の選定や職員へのポジショニング指導を行い、桜の森のショートステイ利用中に、安全・安楽に過ごしていただけるよう配慮した。 ・カラオケ余暇の実施 定期的にカラオケ大会を他のメンバーと協力し、実施した。余暇活動をあまりすることが出来ない利用者が、少しでも楽しんでもらえるよう配慮する。参加メンバーや気候次第では、散歩やドライブなどに切り替えを行い、入居者が生活を楽しめるよう方法を考えた。 ・事故防止委員会への参加 起きてしまった事故の内容を、PT としてどのようなことが原因として考えられるのか考察し、今後同じような事故が起きないよう他の委員と相談し対策を練った。 ・褥瘡対策委員会への参加 いままでも必要に応じてポジショニング表の作成を実施していたが、今回より褥瘡対策委員会へ参加することとなり、施設内の褥瘡を可能な限りゼロにするよう努めた。作ってしまった褥瘡に関しては早期治療に繋げた。具体的には、ポジショニング表の作成を行うだけでなく、実際にユニット会議の場や数日かけて職員を集めて可能な限り全職員へ、PT がポジショニングを行うところを説明しながら見ていただくことでより理解を深めてもらった。その際に直接質問を受けることで、その場で疑問を解決してもらい、利用者の安楽肢位の確保に繋げた。 <p>鍼灸治療サービスの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施術の対象者 2019 年度（2019 年 4 月～2020 年 3 月）の鍼灸治療対象者は前年度からの継続 25 名（デイサービス 8 名、ショートステイ 3 名、特養 14 名）、今年度中の新規治療希望者 23 名（デイサービス 7 名、ショートステイ 12 名、特養 4 名）、今年度中に利用中止の対象者 13 名（死亡 1 名、退所 7 名、中止 5 名）であった。令和 2 年 3 月末現在の合計施術者数は 48 名である。 この 1 年で 25 名から 48 名に増加した。このうち在宅（デイサービスとショートステイ）から特養に入居後も鍼灸治療を継続した利用者は 2 名であった。 新規鍼灸治療対象者(23 名)の「鍼灸治療を受けるきっかけ」を調べると、当施設の職員からの紹介 2 名、ケアマネジャーからの紹介 1 名、ロコミ・本人からの依頼 16 名、家族からの依頼 4 名でロコミ・本人からの依頼が圧倒的に多かった。デイサービスにおいてロコミ効果がある程度認められた。 <p>① 対象者 48 名の要介護度及び対象疾患など</p> <ul style="list-style-type: none"> 男性：6 名、女性：42 名 平均年齢：85 歳 平均要介護度は 3.2 の利用者は 40 名 要支援 1 の利用者は 2 名、要支援 2 の利用者は 6 名合計 8 名 <p>対象者の主な疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> 疼痛（肩・腰・膝の痛み）及び慢性疾患（筋力低下など）、認知症を伴っているのが特徴
-------------	--

<p>事業内容</p>	<p>② 治療方法及び治療頻度など 鍼・灸・赤外線治療・マッサージ 1～2週間/回、30～45分/回（実質治療時間）、4人/日程度 1人あたりの治療回数：利用者ごとに異なり、最小1回、最大34回、平均15回 毎回治療時家族が同席の利用者数：4名（＊ご家族の希望）</p> <p>③ 治療効果について</p> <p>1) 鍼灸治療によって、多くの利用者の主訴である疼痛は緩和された。認知症で便秘もちの利用者に鍼灸治療を行った結果便秘が改善された。</p> <p>・ 顔面神経麻痺（末梢性）の利用者に鍼灸治療 29回で症状の顕著な改善を見られた。</p> <p>2) 治療中に利用者とコミュニケーションをとることで、利用者が気持ちよく、穏やかな精神状態が得られていることが伺えた。鍼灸治療のある日を楽しみに待っているという利用者が多かった。</p> <p>学会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第68回全日本鍼灸学会学術大会 愛知大会, 名古屋, 2019.5 ・ 第70回日本東洋医学会学術総会, 東京, 2019.6 <p>論 文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 王桂鳳, 認知症をもつ特別養護老人ホーム利用者への鍼灸治療の効果, 「認知症ケアジャーナル」2019年12月号. (抄録: アルツハイマー型認知症の特養施設利用者に対して、同一鍼灸師が週1回の鍼灸治療を実施した。当利用者は物忘れ、憂うつ、不安、不眠、肩痛・腰痛・膝痛の訴えが多く、要介護度4の80代後半の女性であった。実施後、症状の観察と共に、うつ性自己評価尺度、意欲指標及び長谷川式簡易知能評価スケールを鍼灸治療介入前後で評価した。また、その家族・介助者にアンケート調査を行った。実施5ヶ月後、症状の顕著な改善がみられた。) <p>学会発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 王桂鳳, 顔面神経麻痺をもつ介護福祉施設利用者への鍼灸治療効果, ～鈴鹿医療科学大学グループ・桜の森白子ホームからの事例報告～, 第21回日本認知症ケア学会（受理済）。 <p>5. その他の活動</p> <p>① 社会貢献活動 2019年6月と11回計2回当施設で「鍼灸講座」を開催した。多くの方に鍼灸治療の良さを身近に感じて頂いた。</p> <p>② 鍼灸学科2年生全員(19名)を対象とする「臨床実習Ⅰ」（後期）施設見学実習を受け入れた。</p> <p>③ 夏祭りで鍼灸学科のボランティア学生と一緒に薬膳茶のコーナーを開いた。</p>
-------------	--

利用状況

入居者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
女	56	57	56	56	58	57
男	26	26	26	24	23	23
計	82	83	82	80	81	80
内、入院者	3	6	6	3	4	2

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
女	58	59	61	62	61	60
男	22	22	21	19	20	21
計	80	81	82	81	81	81
内、入院者	3	5	5	6	6	5

入居者の要介護度状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護1	1	1	1	1	1	1
要介護2	2	2	2	2	2	2
要介護3	21	22	22	23	24	23
要介護4	28	27	29	28	29	30
要介護5	30	31	28	26	25	24
平均	4.02	4.02	3.99	3.95	3.93	3.93

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	1	1	1	1	1	1
要介護2	2	2	2	2	2	2
要介護3	22	22	21	18	18	19
要介護4	31	32	33	32	32	30
要介護5	24	24	25	28	28	28
平均	3.94	3.94	3.96	4.04	4.04	4.03

入退居の状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居	女	1	2	2	1	2	1
	男	1	1	1	1	0	0
	計	2	3	3	2	2	1
退居	女	1	3	1	0	2	1
	男	1	1	3	1	0	2
	計	2	4	4	1	2	3
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	女	2	2	2	2	0	1
	男	1	1	1	0	2	1
	計	3	3	3	2	2	2
退居	女	1	0	1	1	2	0
	男	1	2	2	1	0	1
	計	2	2	3	2	2	1

備考	《退居内訳》	《平均年齢》
	死亡 女10男11 長期入院 女3男3 他施設 女0男0 家庭復帰 女0男1 その他 女0男0	84.9歳 男女別 女 86.4歳 男 80.2歳
	合計 28名	《入居申込み者》 214人 内、待機者 20人 (令和2年3月31日現在)

開催年月日	行事名	行事内容
H31.4	花見	各ユニットで桜の森公園へ
R1.5.9	寿司	昼食にお寿司(スシロー)提供
R1.6.15	劇団公演	劇団『花さつき』による演劇
R1.7.20	ボランティア公演	『花咲ケメ子さん』によるお笑いショー公演
R1.8.3	夏祭り	各ユニットにて出し物(屋台)
R1.10.6	スイーツバイキング	手作りおやつなどを提供
R1.11.14	寿司	昼食にお寿司(スシロー)提供
R1.12.21	クリスマス会	学生ボランティアによるトーンチャイム演奏会
R1.12.28	もちつき大会	もちつきを行い、鏡餅を作る
R2.1	書初め	各ユニットで書初めを行う
R2.2.3	節分	鬼が全ユニットまわる、豆(新聞紙)をぶつける
		ひなまつり行事はコロナウイルス感染予防のため中止となる。

ボランティア受け入れ

開催年月日	行事名	
H31.4	音楽・歌声クラブ	鈴鹿医療科学大学学生
R1.5.11、15	足浴・傾聴など	鈴鹿医療科学大学 看護学科
R1.6.22	足浴・傾聴など	鈴鹿医療科学大学 看護学科
R1.7.14	足浴・傾聴など	鈴鹿医療科学大学 看護学科
R1.7.20	お笑いショー	『花咲ケメ子さん』によるお笑いショー
R1.8.3	夏祭り	鈴鹿医療科学大学学生31名、社協2名、演奏者(外部)1名
R1.8.6	三味線、太鼓など	『お祭り楽団』による公演
R1.9.14	足浴・傾聴など	鈴鹿医療科学大学 看護学科
R1.10.6	スイーツバイキング	鈴鹿医療科学大学学生10名
R1.11	車椅子清掃	鈴鹿医療科学大学 理学療法学科
R1.11.16、23、30	足浴・傾聴など	鈴鹿医療科学大学 看護学科
R1.12.7	吹奏楽演奏会	鈴鹿医療科学大学 吹奏楽部
R1.12.21	クリスマス会	鈴鹿医療科学大学学生11名(トーンチャイム)

社会福祉事業の運営	
事業名	短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）の運営
事業内容	<p>介護報酬改定では、地域包括ケアシステムの推進と中重度の要介護者への更なる強化を推進している。</p> <p>短期入所に関する内容として、緊急時の円滑な受入れが促進されるよう、又、医療機関との連携や医療面の対応力がこれまで以上に求められ医療福祉、看介護の連携調整が必要になっていることから、家族の介護負担軽減から社会的入院の補完まで、様々なニーズに応じられるサービスの質の向上を目指し、家族・関係機関との連携に努めながら効率よく利用希望に対応できるよう心掛けた。在宅生活が継続できるような支援の仕組み、介護方法を情報提供し、可能な限り地域で生活できるような支援体制の強化に努めた。</p> <p>短期入所のニーズは、今後益々高まると思われる中、利用者から選ばれる短期入所生活介護事業所を目指した。令和元年のリピーター率 55%・長期利用者（ロングショート）40%。また、空床時には緊急利用にも対応できるよう、介護支援専門員（居宅）・家族とのコミュニケーションを重視し、臨機応変な対応を心掛けた。稼働率を向上させる為、各居宅支援事業所に空き情報を提供し、積極的な営業活動に努めた。</p> <p>【基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅生活が長く続けられるよう、利用後も同じ生活状態にスムーズに戻れるために、利用者の個別化を重視したケアプランを作成・実施する。 2. 困難ケースに対応できる専門性を養い、柔軟な対応を心がける。 3. リピーター利用者の獲得を目指し、稼働率を上げる。 <p>【具体的取り組み】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者のニーズを十分に把握し、その人らしい暮らしが続けられるような介護計画を作成し実践していき、自宅での生活スタイルを優先する。その上で、施設の機能を生かし、日常生活動作の維持向上に努めた。 2. 常に家族・利用者の立場になって、何をもって困難ケースといえるのかを徹底的に分析し、高い専門性を身につけ、あらゆるケースに果敢に対応した。 3. 職員は笑顔を絶やさず、おもてなしの精神で利用者・家族と向き合う。入所期間中は安全を重視し誠心誠意で対応し、利用者・家族とは馴染みの関係を築けるよう努力することで、リピーター利用者を増やせた。

事業内容

短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護事業（定員 20名）
 ※空床利用含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
営業日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日
利用実人数	61人	63人	77人	70人	71人	73人
利用延人数	526人	646人	608人	620人	699人	602人
1日平均	17.5人	20.8人	20.2人	20.0人	22.5人	20.0人
稼働率	87.6%	104%	101%	100%	112%	100%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	31日	30日	31日	31日	29日	31日
利用実人数	73人	80人	70人	72人	72人	68人
利用延人数	627人	581人	599人	655人	650人	634人
1日平均	20.2人	19.3人	19.3人	21.1人	22.4人	20.4人
稼働率	101%	96.8%	96.6%	105%	112%	102%

令和元年度平均稼働率 101%

行事開催状況

開催年月日	行事名	行事内容
H31.4月	花見	桜の森公園で桜を見る
R1.8月	夏祭り	各ユニット出し物を行う。
9月	敬老会	ケーキ作り
10月	誕生会 ドライブ行事	ケーキ作り コスモス畑
11月	焼き芋行事	焼き芋作り
12月	クリスマス会 お好み焼き作り 餅つき	ケーキ作り お好み焼き昼食で提供 地域交流室で餅つき
R2.1月	外出行事	寿司（スシロー・くら寿司） 喫茶店 初詣
2月	節分 バレンタインデー チラシ寿司作り 外出行事	鬼に紙ボールを投げる チョコ作り チラシ寿司昼食で提供 いちご狩り
3月	ひな祭り たこ焼き作り おはぎ作り クレープ作り	折り紙でお雛様・お内裏様作り たこ焼き作り おはぎ作り クレープ作り

※R1.12月より週1回の行事を開催。現在も継続中

社会福祉事業の運営	
事業名	通所介護（デイサービス）の運営
事業内容	<p>その人らしく自立した生活が出来るよう利用者のニーズに応えるサービス提供をするためには、「介護保険の理念である自立支援・重度化防止をより一層図っていくこと」を重点に事業展開し、在宅生活が継続出来、望まれるサービス提供の実現に努め、チームで利用者、家族の情報を共有し、信頼関係を構築しながら生活全般をサポートし、利用者の個別化を重視した通所介護計画を作成・実施している。</p> <p>また、相談援助技術の専門的スキルを向上させ、利用者、家族の気持ちを受けとめ、その人らしい生活ができるように、きめ細やかな心遣いのあるサービスを提供し、困難ケースに対応できる専門性を養い、柔軟な対応を心がけた受け入れ体制の強化を図る。</p> <p>さらに、デイサービスの経営を安定的に行っていくためには、経営指標（人件費率や稼働率）等を正しく判断し経営戦略を立て、安定的に経営するための労働生産性を高め人員配置の適正化をすすめている。令和元年11月から、定員数を27名へと変更した。定員25名ではショートステイ利用や体調不良による当日に急な休みがあり、1日の利用予定数が20名を切ることも起こっていた。7月8月は入院されている方がそのまま利用中止となり、稼働率の低下が起こった。デイサービス入院者の帰る場所の確保や、利用者の不規則なショートステイでのお休みされることを見越し、定員数を増やしたことで20名を切る日は改善してきている。令和2年2月頃からは新型コロナウイルスの影響により、家族・利用者の判断でお休みされる方が増え、稼働率の低下に繋がっている。</p> <p>【基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の自立の支援と日常生活の充実に資するよう複数メニューから選択できるプログラムの実施 2. 身体機能の向上を目指すことを中心に機能訓練（身体機能、疾病、疾病予防に対するプログラム）の実施 3. 職場の活性化と職員のスキルアップを目指し、専門職としてのスキル向上、働きやすい環境を構築 4. 適正な人員配置による人件費率コントロール 5. 稼働率向上を目指した営業 <p>【具体的取り組み】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者数の増加を図るべく、居宅介護支援事業者と連携した。また、利用者に満足していただける対応、体制、サービスの提供を行っていく為、体験利用の充実と拡大を計画した。 2. 利用者の意向及び趣味を考慮しつつ、生活に張り合いを見出すためアクティビティの取り組みを積極的に行った。特に身体機能維持・向上や、栄養改善、口腔機能向上等の積極的な取り組みを続けた。 3. 季節感を感じて頂けるような年間イベントを計画し、実施をした。今年度2回程度、地域のボランティア団体の方に慰問をしていただき、利用者には楽しい時間を過ごして頂き、ボランティアという地域の方々にもデイサービスの取り組みを知って頂く好機となった。

4. 労働生産性を高め人員配置を適正化する。デイサービスの人件費率(人件費割合)は、介護事業収益に対する人件費割合は全国平均 60.7%となっており(介護事業経営実態調査、平成 29 年)、60%台を目指した。
5. デイサービスの稼働率アップは黒字運営する上での絶対条件である。稼働率 85.5%の計画に対し実績 82.2%だった。

通所介護事業(定員 25名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用延人数	528	560	517	526	464	477
1日平均	20.3	20.7	20.7	19.5	17.2	19.1
稼働率(25名)	81.2	83.0	82.7	77.9	68.7	76.3
稼働率(27名)						

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用延人数	523	583	580	511	541	558
1日平均	20.1	22.4	22.3	21.3	21.6	21.5
稼働率(25名)	80.5	89.7	89.2	85.2	86.6	85.8
稼働率(27名)		83.0	82.6	78.8	80.1	79.4

令和元年度稼働率(25名) 82.2%

事業内容

公益事業の運営													
事業名	訪問看護ステーションの運営												
事業内容	<p>「桜の森白子ホーム」の訪問看護ステーションとして3年目となった今年度は6月から管理者を交替することで地域のケアマネジャーや病院の医療ソーシャルワーカーへの当事業所のイメージチェンジを図った。</p> <p>依頼のあったケースに対して利用者、主介護者、担当ケアマネジャーに丁寧に対応することにより、担当ケアマネジャーとの信頼関係を形成することができ、その後の利用者の依頼につなげることができた。</p> <p>リハビリのニーズに対しては、作業療法士（常勤1名）、理学療法士（非常勤1名）の体制で対応し、訪問看護、訪問リハビリともに提供できる体制を整えることができた。</p> <p>近隣の訪問看護事業所が看護師不足のため休止となり、今まで利用者紹介のなかった居宅介護支援事業所から何ケースか依頼があり、その後も継続して同じケアマネジャーからの依頼を獲得できた。</p> <p>当法人の居宅介護支援事業所のケアマネジャー、デイサービスセンター、ショートステイの相談員とも連携をとって利用者の情報を共有し、相互に利用者の獲得につなげるようにした。</p> <p>これらの取り組みにより、介護保険での利用者を増やすことができ、少しずつ利用者数を積み上げて確保することができた。その結果として1ヶ月の訪問回数については前年度に対し2.5倍に伸ばすことができた。</p>												
	令和元年度訪問回数												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>119回</td> <td>138回</td> <td>139回</td> <td>179回</td> <td>183回</td> <td>232回</td> </tr> </tbody> </table>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	119回	138回	139回	179回	183回	232回
	4月	5月	6月	7月	8月	9月							
119回	138回	139回	179回	183回	232回								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>252回</td> <td>217回</td> <td>226回</td> <td>236回</td> <td>260回</td> <td>278回</td> </tr> </tbody> </table>	10月	11月	12月	1月	2月	3月	252回	217回	226回	236回	260回	278回	
10月	11月	12月	1月	2月	3月								
252回	217回	226回	236回	260回	278回								

事業内容	<p>居宅介護支援事業所の運営</p> <p>居宅介護支援事業所として3年目になり、事業所の存在を知ってもらえるようになった。鈴鹿市内の北部・南部・中部の地域包括支援センターからの紹介があるようになり、特に同じ地域を担当する南部と中部地域包括支援センターからは何人もの利用者の紹介があった。</p> <p>鈴鹿中央総合病院、塩川病院等の医療ソーシャルワーカーや認知症初期集中支援チームからも利用者の紹介があった。</p> <p>また、当法人のデイサービスセンター、ショートステイの相談員とも連携をとり、利用者の情報共有を行い、担当ケアマネジャーがいない利用者については当居宅介護支援事業所のケアマネジャーで担当することにつなげることができた。</p> <p>当事業所の体制については3名体制となり、特定事業所加算（Ⅲ）300単位/1ケースを算定できる事業所として維持できた。特定事業所加算算定事業所として近隣の居宅介護支援事業所4事業所と共同で事例研究会を計画し実施した。</p> <p>また、加算算定については、初回加算300単位、入院時情報連携加算200単位、退院・退所加算600単位の算定を行なった。今年度はターミナルの利用者についてターミナルケアマネジメント加算400単位を1件算定することができた。</p> <p>結果として、担当利用者人数は当初計画に対して94%の達成率となり、居宅介護支援費については当初予算に対して97%を達成することができた。</p> <p>令和元年度利用者数</p> <table border="1" data-bbox="432 1442 1315 1682"> <tr> <td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td> </tr> <tr> <td>65人</td><td>68人</td><td>66人</td><td>69人</td><td>77人</td><td>75人</td> </tr> <tr> <td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td> </tr> <tr> <td>77人</td><td>74人</td><td>73人</td><td>73人</td><td>75人</td><td>73人</td> </tr> </table>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	65人	68人	66人	69人	77人	75人	10月	11月	12月	1月	2月	3月	77人	74人	73人	73人	75人	73人
	4月	5月	6月	7月	8月	9月																			
65人	68人	66人	69人	77人	75人																				
10月	11月	12月	1月	2月	3月																				
77人	74人	73人	73人	75人	73人																				

事業名	各種委員会活動
事業内容	<p>令和元年10月より既存の委員会そのままに、職員の業務負担の軽減及び利用者との活動の時間の確保、より質の高い委員会活動とするため、一部委員会をユニットリーダー中心としたメンバーで構成。多様化する利用者の方々のニーズを的確に把握してどう対応するか、また利用者の方々に安全に且つ充実した生活を送って頂くことを念頭に置いて委員会活動の実施を行った。</p> <p>法人人事委員会 法人理念、法人人事理念を通じて、施設の安定的な運営およびサービス向上のための人材育成に積極的に取り組み、職員のやりがいや仕事を通じた満足度および定着率の向上につなげていくための活動を行った。</p> <p>感染対策委員会 入居者・利用者様、職員の生活空間の環境を整える。感染症の流行の把握に努め、標準予防策の徹底に向けて、研修や事例を通して個々の知識を深め、当たり前のことが当たり前に実践できるように整えつつ、皆様が健康に過ごせるような活動を行った。</p> <p>事故防止委員会 介護・医療事故の把握と分析を行い施設における事故の防止と、安全かつ適切に、質の高い介護・医療を提供する体制を確立するための活動を行った。</p> <p>身体拘束及び虐待防止委員会 施設における身体拘束及び虐待の有無の把握と、身体拘束及び虐待を維持していくための勉強会等の取り組みを行った。</p> <p>行事・給食委員会 季節に応じた行事を企画運営し、入居者・利用者様はもちろん地域の方々に対して楽しんでいただける各種行事になるような活動を行う。 利用者様・入居者様に安心・安全に楽しんで食事していただける事を目標に活動を行った。</p> <p>衛生委員会 産業医、衛生管理者、看護師、栄養士、職員代表等が、お互いの立場の枠を超え、事業場における労働災害防止や健康管理の方向を定め、その推進を図るための活動を行った。</p> <p>褥瘡予防委員会 入居者・利用者の身体の状態や栄養、皮膚の状態を観察し褥瘡のリスクを検討しつつ、個々の状況に応じた対策を行い褥瘡の予防に努める活動を行った。</p> <p>見守り機器検討委員会 見守り機器を安全且つ有効に活かすために新設。施設で導入しているセンサーベッドの使用状況や、適切な使用がされているかの確認と検討を行った。</p>